PSE

品名　水電柱
品番　MP850-A1E1（B、D、S）

このたびは、当社の商品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。ご使用前に、必ず『組付・施工・取扱説明書』をお読み頂き、安全に正しくお取扱い頂くようお願いします。

安全上のご注意　必ずお守り下さい

■誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ 警告	誤った取扱いをしたときに、死亡または重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠ 注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋、家財などの損害に結びつく可能性があるもの

⚠ 警告

禁止	• **商品の仕様にないものの取付け、植栽や他の構造物の支え、踏み台、運動具、遊具等、目的以外の使用はしない。** 製品に想定以外の負荷が加わり、曲がりや転倒の原因となります。 • **本説明書にない追加工、改造はしない。** 強度低下による曲がりや転倒、追加工部からの腐食による寿命低下の原因となります。
必ず守る	• **商品の組立・施工は、必ず『本説明書』を読み、正確に行う。また組立・施工後に『本説明書』を施主様にお渡し、取扱方法及びメンテナンスについてご説明する。** • **高所作業が伴う場合は、転落、工具、部品の落下や倒壊の防止、また暗所作業時の照度の確保などを必ず行う。** • **電気工事は「電気工事士」の資格のある方が、「電気設備の技術基準」および「内線規定」に基づき、水道工事は指定工事店が「水道法施工令」に基づき行う。** • **水電柱にはアース工事（D種接地工事：接地抵抗　100Ω以下）を行う。** • **建柱時は、水電柱下面の水はけを良くする。** • **EV・PHEV充電用として用いる場合は、必ず専用回路とし、漏電ブレーカー設置する。**

⚠ 警告

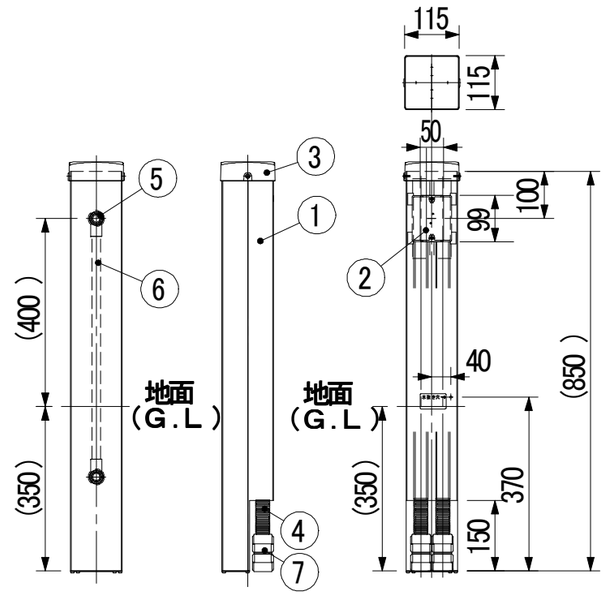
禁止	• **凍結の恐れがある地域には、設置しない。** 器具の凍結は、器具が破損し、漏水が発生する恐れがあります。 • **本品を給湯器や暖房機などの排気を妨げる場所や排気熱が直接当たる場所に設置しない。** 本品が換気の妨げとなり、通切な換気ができなくなる可能性があります。 • **本品を危険な場所や通行の妨げになる場所へ設置しない。** • **運搬中は振り回さない。** 人や物などに当たり、ケガの原因となります。 • **塩分を含む砂(海砂)を用いたコンクリート(またはモルタル)を使用しない。また大気中や地質に強い酸・アルカリ成分が含まれる場所には使用しない。** ポールが腐食し、破損・倒壊する恐れがあり危険です。
必ず守る	• **荷崩れしないように保管する。** ポールを立て掛けるなど不安定な保管は倒れて本品が破損するだけでなく、ケガの原因となります。 • **組立や運搬時に手を挟まないように注意する。** • **蛇口の取付け前に配管内の洗浄をする。（1 分程度の流水）** 配管内のゴミ、切り屑などが蛇口のパッキンを傷付ける恐れがあります。

お願い

※　EV普通充電で用いる場合は、日本配線システム工業会『EV普通充電用電気設備の施工ガイドライン』を参考とし、設計・施工を行って下さい。

- **外観商品ですので、輸送や保管など取扱いにご注意下さい。**
- **製品を破損したまま使用すると事故原因となりますので、破損した際はすぐに施工店にご連絡ください。**
- **破損や劣化、作動不良の原因となるので、本品の近くで火気を使用しないでください。**
- **本品の汚れを拭き取る場合は、研磨剤入りのクレンザー、シンナー、ベンジン、ワックス、石油、塩素系溶剤等を使用せず、水で薄めた中性洗剤を使用し、最後に水で濡らした布で拭き取って下さい。**
- **施工の際、ポール（外筒）に無理な荷重を掛けないで下さい。**
- **水電柱に充電コンセントを付けて車が通るところに設置する場合、必ず防護柵や車止めなどを設置し、水電柱への衝突対策をして下さい。**
- **排水管を設けない場合は、水はけのいい場所や水が流れても支障がない場所を選び、設置して下さい。**
- **凍結の恐れのある地域（寒冷地）では、最寄りの水道工事店にご相談の上、適切な凍結防止策を施して設置して下さい。**
- **ご不要の折には地域の条例に従って正しく廃棄して下さい。**
- **改良のため予告なしに製品の一部を変更することがありますので、ご了承ください。**

仕様図



No.	部品名称	数量
①	柱	1
②	ジョイントボックス(PS)E	1
②	トップ（添付）	1
④	合成樹脂製可とう電線管　22	2
⑤	水道用合成樹脂製塩化ビニル管用給水栓エルボ HI-VP13×Rp1/2（JIS）	2
⑥	水道用合成樹脂製塩化ビニル管　HI-VP13（JIS）	1
⑦	合成樹脂製可とう電線管用カップリング　22（添付）	2
	トラスタッピンネジ　4×12　（添付）	3
	皿小ネジ　M4×20　（添付）	2
	合成樹脂製可とう電線管 22 用キャップ（添付）	2
	合成樹脂製可とう電線管　22（添付）	2

施工手順

工事の取り合いにより施工手順が異なります。次の手順に従って施工して下さい。

■水道工事が先の場合の据付工事

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 水道工事 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

1.埋設穴を確保

設置場所にモルタルと割栗石寸法（500㎜×500㎜×450㎜）と水道配管とPF管配管工事を考慮したスペースを確保し、穴を掘る。

2.割栗石の敷設

水電柱の設置位置に合わせ、水はけ用の深さ 100㎜程度（500㎜×500㎜）の割栗石を敷く。（図１参照）

3.水電柱の据付け

水電柱を埋設穴の割栗石の上に立て、添え木等により仮固定し、垂直・水平の寸法を調整する。

4.水道管の配管

水道管を適切な深さで地中配管し、水電柱下部の水道管接続部にバルブソケットを用いてに接続する。

5.水道配管側のモルタルの打設

水電柱の下端のPF管を同梱のPF管で延長し、水道管・バルブソケットと水抜き穴を埋めないように注意し、モルタルを打設します。PF管の管端は同梱のキャップを嵌め、埋まらないように地面（G.L）から出しておきます。（図１参照）

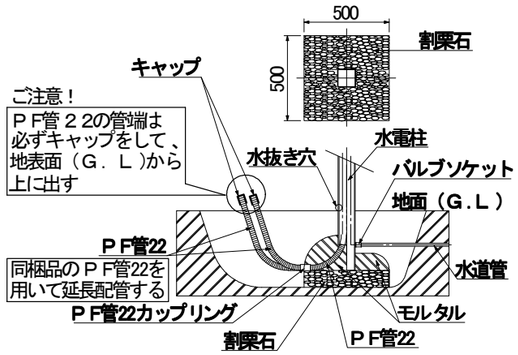


図１ 水道管とPF管の配管状況

6.埋設穴の処理

埋設穴に誤って人が落ちないように適切な処理を施す。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 電気工事 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

7.PF管の配管

PF管を適切な深さで地中配管し、水電柱のPF管の管端のキャップ外してPF管カップリングを用いて接続する。（図２参照）

注意 PF管の配管は、電線の通線に配慮して曲げ半径は管の直径の 6 倍（R200mm 以上推奨）以上として下さい。

8.アースをとる

アース棒を打ち込み、アース線を水電柱の最上部まで通線し、アース線接続部に付属のアース線ネジを用いて接続する。（図２、３参照）

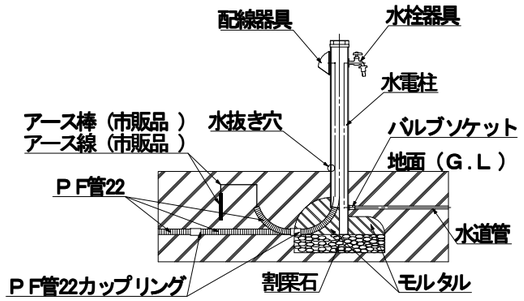


図２ 水道管とPF管の配管、アース線の配線状況

9.トップの取付け

トップを添付のネジを用いてネジ締め固定します。（図３参照）

注意 ネジが効かなくなったり、トップの割れ・欠けの原因となりますの で、締め過ぎにご注意下さい。

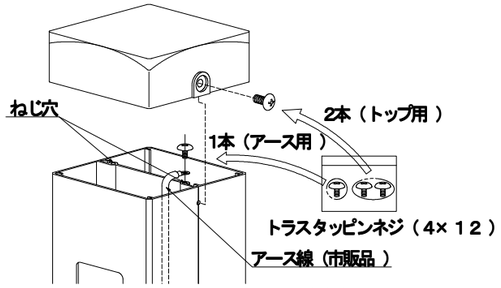


図３ 水電柱最下部アース線接続状況

10. 埋戻し

水抜き穴を塞がないようにPF管及び水道管を埋込みライン（水電柱最下部より350㎜）まで水電柱を埋め戻す。（図２参照）

注意 コンクリート埋設の場合、コンクリートが乾くまで充分養生して下さい。

■電気工事が先の場合の据付工事

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 電気工事 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

1.埋設穴を確保

設置場所にモルタルと割栗石寸法（500㎜×500㎜×450㎜）と水道配管とPF管配管工事を考慮したスペースを確保し、穴を掘る。

2.割栗石の敷設

水電柱の設置位置に合わせ、水はけ用の深さ 100㎜程度（500㎜×500㎜）の割栗石を敷く。（図５参照）

3.水電柱の据付け

水電柱を埋設穴の割栗石の上に立て、添え木等により仮固定しながら垂直、水平の寸法を調整する。

4.PF管の配管

PF管を適切な深さで地中配管し、水電柱のPF管の管端のキャップ外してPF管カップリングを用いてに接続する。（図５参照）

5.アースをとる

アース棒を打ち込み、アース線を水電柱の最上部まで通線し、アース線接続部に付属のアース線ネジを用いて接続する。（図４、５参照）

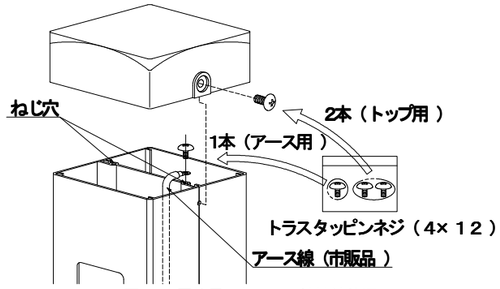


図４ 水電柱最下部アース線接続状況

6. トップの取付け

トップを添付のネジを用いてネジ締め固定します。（図５参照）

注意 ネジが効かなくなったり、トップの割れ・欠けの原因となりますので、締め過ぎにご注意下さい。

7.PF管配管側のモルタルの打設

水電柱の水道管接続部と水抜き穴を塞がないように注意しながらモルタルを打設する。（図５参照）

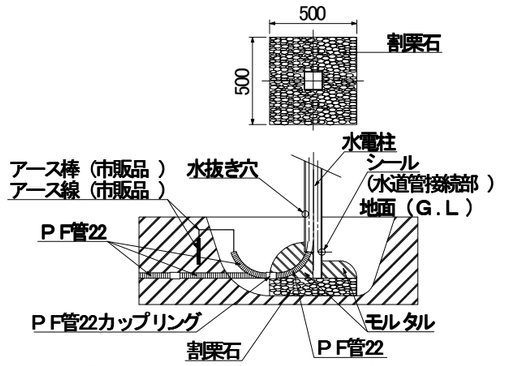


図５ 水道管とPF管の配管、アース線の配線状況

8.埋設穴の処理

埋設穴に誤って人が落ちないように適切な処理を施す。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 水道工事 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

9.水道管の配管

水道管を適切な深さで地中配管し、水電柱下部の水道管接続部にバルブソケットを用いてに接続する。（図６参照）

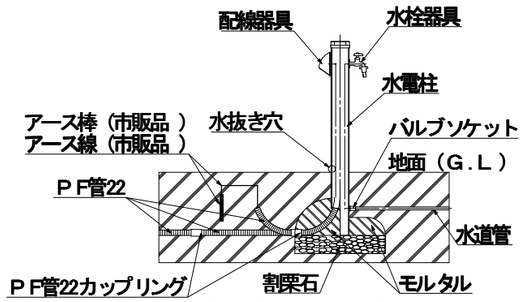


図６ 水道管とPF管の配管、アース線の配線状況

10. 埋戻し

水抜き穴を塞がないようにPF管及び水道管を埋込みライン（水電柱最下部より350㎜）まで水電柱を埋め戻す。（図６参照）

注意 コンクリート埋設の場合、コンクリートが乾くまで充分養生して下さい。

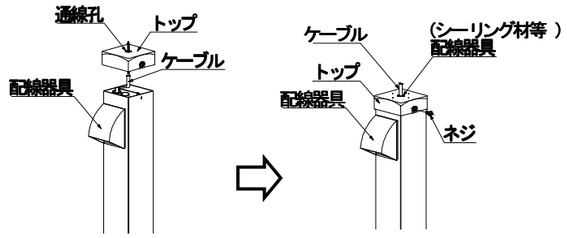
■水栓器具及び配線器具の設置

水栓器具の取付けは水栓器具、配線器具の取付けは通線後、配線器具の注意事項に従って取り付ける。

■照明器具の取付け

1. ケーブルを水電柱最上部まで通線し、引き出しておく。
2. トップ（添付）の中央に照明器具用のケーブルを通線のための孔を開ける。
   注意 ケーブルを傷付けないよう孔には面取りを施して下さい。
3. トップの孔にケーブルを通しながらポールに取付け、開口（ケーブル通線部）の隙間を防水処理（シーリング処理）を施す。（図７参照）

図７ 通線及び防水処理



4. 照明器具の基台を、タッピンネジ（4×20）を用いてトップにネジ締め固定する。（図８参照）
   注意 取付けピッチが 66.7㎜、基台の大きさが最大 110×110㎜以下の照明器具を選択し、タッピンネジ（4×20）を用いてネジ締め固定して下さい。

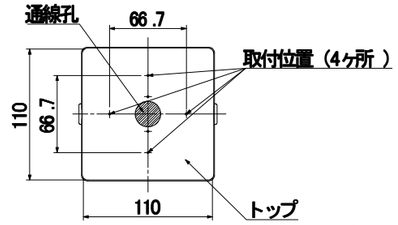


図８ 通線孔及び照明器具の取付け位置（トップ）

5. 照明器具の取付け及び電気工事は照明器具の注意事項に従い、資格を有する方が行って下さい。

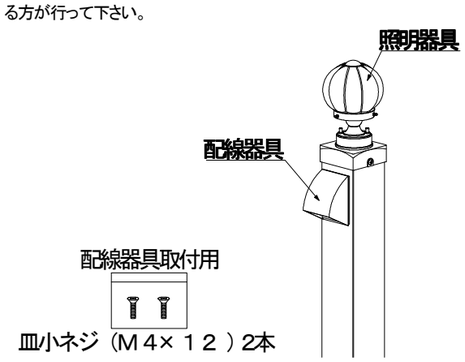


図９ 照明器具取付け例

品名　水電柱
品番　MP1050-A1E1（B、D、S）

このたびは、当社の商品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。ご使用前に、必ず『組付・施工・取扱説明書』をお読み頂き、安全に正しくお取扱い頂くようお願いします。

安全上のご注意　必ずお守り下さい

■誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ 警告	誤った取扱いをしたときに、死亡または重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠ 注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋、家財などの損害に結びつく可能性があるもの

⚠ 警告

禁止	• **商品の仕様にないものの取付け、植栽や他の構造物の支え、踏み台、運動具、遊具等、目的以外の使用はしない。** 製品に想定以外の負荷が加わり、曲がりや転倒の原因となります。 • **本説明書にない追加工、改造はしない。** 強度低下による曲がりや転倒、追加工部からの腐食による寿命低下の原因となります。
必ず守る	• **商品の組立・施工は、必ず『本説明書』を読み、正確に行う。また組立・施工後に『本説明書』を施主様にお渡し、取扱方法及びメンテナンスについてご説明する。** • **高所作業が伴う場合は、転落、工具、部品の落下や倒壊の防止、また暗所作業時の照度の確保などを必ず行う。** • **電気工事は「電気工事士」の資格のある方が、「電気設備の技術基準」および「内線規定」に基づき、水道工事は指定工事店が「水道法施工令」に基づき行う。** • **水電柱にはアース工事（D種接地工事：接地抵抗　100Ω以下）を行う。** • **建柱時は、水電柱下面の水はけを良くする。** • **EV・PHEV充電用として用いる場合は、必ず専用回路とし、漏電ブレーカー設置する。**

⚠ 警告

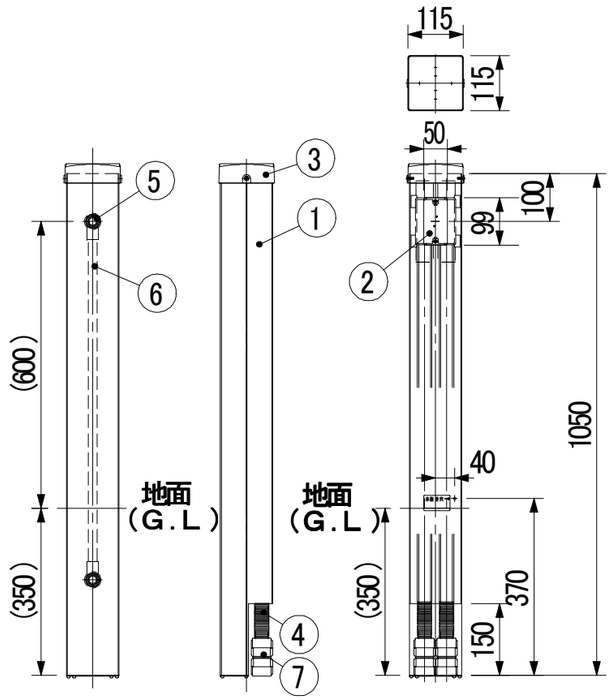
禁止	• **凍結の恐れがある地域には、設置しない。** 器具の凍結は、器具が破損し、漏水が発生する恐れがあります。 • **本品を給湯器や暖房機などの排気を妨げる場所や排気熱が直接当たる場所に設置しない。** 本品が換気の妨げとなり、通切な換気ができなくなる可能性があります。 • **本品を危険な場所や通行の妨げになる場所へ設置しない。** • **運搬中は振り回さない。** 人や物などに当たり、ケガの原因となります。 • **塩分を含む砂(海砂)を用いたコンクリート(またはモルタル)を使用しない。また大気中や地質に強い酸・アルカリ成分が含まれる場所には使用しない。** ポールが腐食し、破損・倒壊する恐れがあり危険です。
必ず守る	• **荷崩れしないように保管する。** ポールを立て掛けるなど不安定な保管は倒れて本品が破損するだけでなく、ケガの原因となります。 • **組立や運搬時に手を挟まないように注意する。** • **蛇口の取付け前に配管内の洗浄をする。（1 分程度の流水）** 配管内のゴミ、切り屑などが蛇口のパッキンを傷付ける恐れがあります。

お願い

※　EV普通充電で用いる場合は、日本配線システム工業会『EV普通充電用電気設備の施工ガイドライン』を参考とし、設計・施工を行って下さい。

- **外観商品ですので、輸送や保管など取扱いにご注意下さい。**
- **製品を破損したまま使用すると事故原因となりますので、破損した際はすぐに施工店にご連絡ください。**
- **破損や劣化、作動不良の原因となるので、本品の近くで火気を使用しないでください。**
- **本品の汚れを拭き取る場合は、研磨剤入りのクレンザー、シンナー、ベンジン、ワックス、石油、塩素系溶剤等を使用せず、水で薄めた中性洗剤を使用し、最後に水で濡らした布で拭き取って下さい。**
- **施工の際、ポール（外筒）に無理な荷重を掛けないで下さい。**
- **水電柱に充電コンセントを付けて車が通るところに設置する場合、必ず防護柵や車止めなどを設置し、水電柱への衝突対策をして下さい。**
- **排水管を設けない場合は、水はけのいい場所や水が流れても支障がない場所を選び、設置して下さい。**
- **凍結の恐れのある地域（寒冷地）では、最寄りの水道工事店にご相談の上、適切な凍結防止策を施して設置して下さい。**
- **ご不要の折には地域の条例に従って正しく廃棄して下さい。**
- **改良のため予告なしに製品の一部を変更することがありますので、ご了承ください。**

仕様図



No.	部品名称	数量
①	柱	1
②	ジョイントボックス(PS)E	1
②	トップ（添付）	1
④	合成樹脂製可とう電線管　22	2
⑤	水道用合成樹脂製塩化ビニル管用給水栓エルボ HI-VP13×Rp1/2（JIS）	2
⑥	水道用合成樹脂製塩化ビニル管　HI-VP13（JIS）	1
⑦	合成樹脂製可とう電線管用カップリング　22（添付）	2
	トラスタッピンネジ　4×12　（添付）	3
	皿小ネジ　M4×20　（添付）	2
	合成樹脂製可とう電線管 22 用キャップ（添付）	2
	合成樹脂製可とう電線管　22（添付）	2

施工手順

工事の取り合いにより施工手順が異なります。次の手順に従って施工して下さい。

■水道工事が先の場合の据付工事

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 水道工事 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

1.埋設穴を確保

設置場所にモルタルと割栗石寸法（500㎜×500㎜×450㎜）と水道配管とPF管配管工事を考慮したスペースを確保し、穴を掘る。

2.割栗石の敷設

水電柱の設置位置に合わせ、水はけ用の深さ 100㎜程度（500㎜×500㎜）の割栗石を敷く。（図１参照）

3.水電柱の据付け

水電柱を埋設穴の割栗石の上に立て、添え木等により仮固定し、垂直・水平の寸法を調整する。

4.水道管の配管

水道管を適切な深さで地中配管し、水電柱下部の水道管接続部にバルブソケットを用いてに接続する。

5.水道配管側のモルタルの打設

水電柱の下端のPF管を同梱のPF管で延長し、水道管・バルブソケットと水抜き穴を埋めないように注意し、モルタルを打設します。PF管の管端は同梱のキャップを嵌め、埋まらないように地面（G.L）から出しておきます。（図１参照）

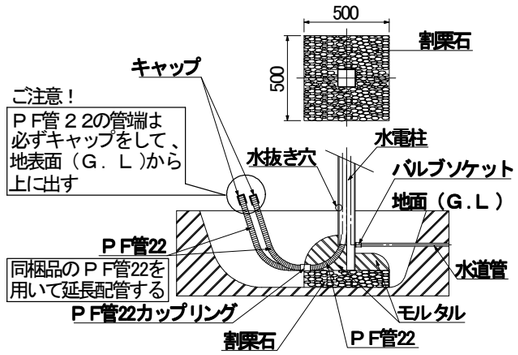


図１ 水道管とPF管の配管状況

6.埋設穴の処理

埋設穴に誤って人が落ちないように適切な処理を施す。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 電気工事 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

7.PF管の配管

PF管を適切な深さで地中配管し、水電柱のPF管の管端のキャップ外してPF管カップリングを用いて接続する。（図２参照）

注意 PF管の配管は、電線の通線に配慮して曲げ半径は管の直径の 6 倍（R200mm 以上推奨）以上として下さい。

8.アースをとる

アース棒を打ち込み、アース線を水電柱の最上部まで通線し、アース線接続部に付属のアース線ネジを用いて接続する。（図２、３参照）

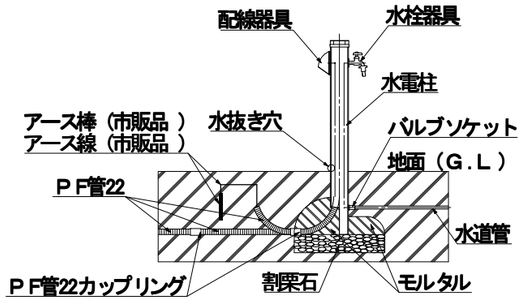


図２ 水道管とPF管の配管、アース線の配線状況

9.トップの取付け

トップを添付のネジを用いてネジ締め固定します。（図３参照）

注意 ネジが効かなくなったり、トップの割れ・欠けの原因となりますの で、締め過ぎにご注意下さい。

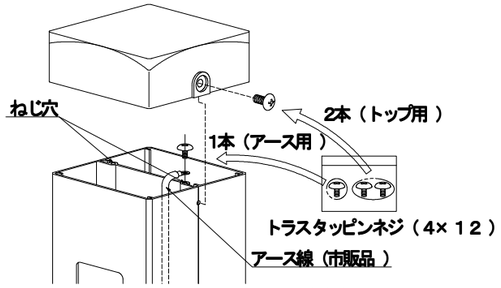


図３ 水電柱最下部アース線接続状況

10. 埋戻し

水抜き穴を塞がないようにPF管及び水道管を埋込みライン（水電柱最下部より350㎜）まで水電柱を埋め戻す。（図２参照）

注意 コンクリート埋設の場合、コンクリートが乾くまで充分養生して下さい。

■電気工事が先の場合の据付工事

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 電気工事 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

1.埋設穴を確保

設置場所にモルタルと割栗石寸法（500㎜×500㎜×450㎜）と水道配管とPF管配管工事を考慮したスペースを確保し、穴を掘る。

2.割栗石の敷設

水電柱の設置位置に合わせ、水はけ用の深さ 100㎜程度（500㎜×500㎜）の割栗石を敷く。（図５参照）

3.水電柱の据付け

水電柱を埋設穴の割栗石の上に立て、添え木等により仮固定しながら垂直、水平の寸法を調整する。

4.PF管の配管

PF管を適切な深さで地中配管し、水電柱のPF管の管端のキャップ外してPF管カップリングを用いてに接続する。（図５参照）

5.アースをとる

アース棒を打ち込み、アース線を水電柱の最上部まで通線し、アース線接続部に付属のアース線ネジを用いて接続する。（図４、５参照）

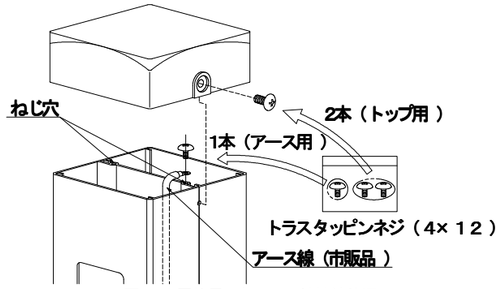


図４ 水電柱最下部アース線接続状況

6. トップの取付け

トップを添付のネジを用いてネジ締め固定します。（図５参照）

注意 ネジが効かなくなったり、トップの割れ・欠けの原因となりますので、締め過ぎにご注意下さい。

7.PF管配管側のモルタルの打設

水電柱の水道管接続部と水抜き穴を塞がないように注意しながらモルタルを打設する。（図５参照）

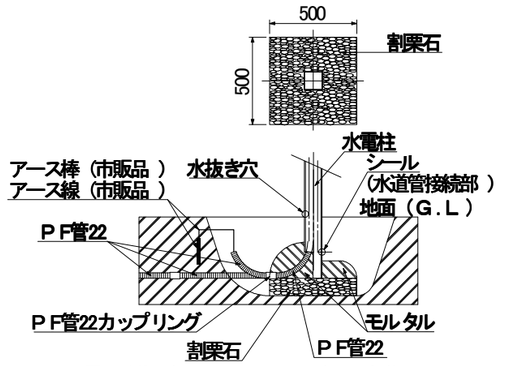


図５ 水道管とPF管の配管、アース線の配線状況

8.埋設穴の処理

埋設穴に誤って人が落ちないように適切な処理を施す。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 水道工事 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

9.水道管の配管

水道管を適切な深さで地中配管し、水電柱下部の水道管接続部にバルブソケットを用いてに接続する。（図６参照）

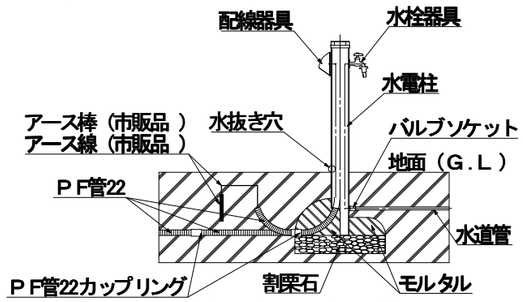


図６ 水道管とPF管の配管、アース線の配線状況

10. 埋戻し

水抜き穴を塞がないようにPF管及び水道管を埋込みライン（水電柱最下部より350㎜）まで水電柱を埋め戻す。（図６参照）

注意 コンクリート埋設の場合、コンクリートが乾くまで充分養生して下さい。

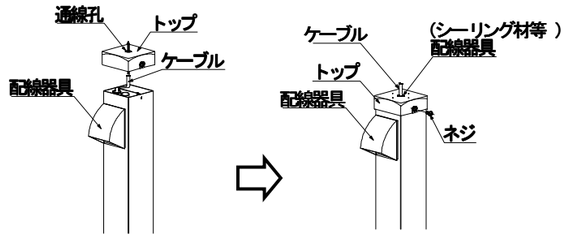
■水栓器具及び配線器具の設置

水栓器具の取付けは水栓器具、配線器具の取付けは通線後、配線器具の注意事項に従って取り付ける。

■照明器具の取付け

1. ケーブルを水電柱最上部まで通線し、引き出しておく。
2. トップ（添付）の中央に照明器具用のケーブルを通線のための孔を開ける。
   注意 ケーブルを傷付けないよう孔には面取りを施して下さい。
3. トップの孔にケーブルを通しながらポールに取付け、開口（ケーブル通線部）の隙間を防水処理（シーリング処理）を施す。（図７参照）

図７ 通線及び防水処理



4. 照明器具の基台を、タッピンネジ（4×20）を用いてトップにネジ締め固定する。（図８参照）
   注意 取付けピッチが 66.7㎜、基台の大きさが最大 110×110㎜以下の照明器具を選択し、タッピンネジ（4×20）を用いてネジ締め固定して下さい。

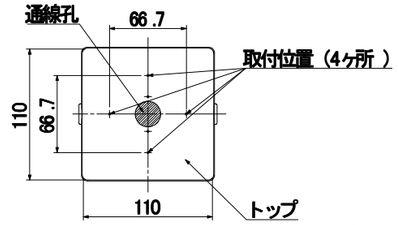


図８ 通線孔及び照明器具の取付け位置（トップ）

5. 照明器具の取付け及び電気工事は照明器具の注意事項に従い、資格を有する方が行って下さい。

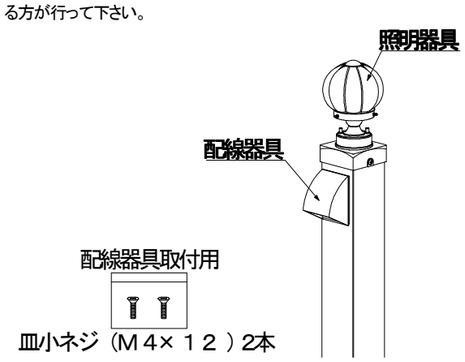


図９ 照明器具取付け例

品名　水電柱
品番　MP1620-A1E2(B,D,S)
MP1620-A1E22（B、D、S）

このたびは、当社の商品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。ご使用前に、必ず『組付・施工・取扱説明書』をお読み頂き、安全に正しくお取扱い頂くようお願いします。

安全上のご注意　必ずお守り下さい

■誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ 警告	誤った取扱いをしたときに、死亡または重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠ 注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋、家財などの損害に結びつく可能性があるもの

⚠ 警告

禁止	• **商品の仕様にないものの取付け、植栽や他の構造物の支え、踏み台、運動具、遊具等、目的以外の使用はしない。** 製品に想定以外の負荷が加わり、曲がりや転倒の原因となります。 • **本説明書にない追加工、改造はしない。** 強度低下による曲がりや転倒、追加工部からの腐食による寿命低下の原因となります。
必ず守る	• **商品の組立・施工は、必ず『本説明書』を読み、正確に行う。また組立・施工後に『本説明書』を施主様にお渡し、取扱方法及びメンテナンスについてご説明する。** • **高所作業が伴う場合は、転落、工具、部品の落下や倒壊の防止、また暗所作業時の照度の確保などを必ず行う。** • **電気工事は「電気工事士」の資格のある方が、「電気設備の技術基準」および「内線規定」に基づき、水道工事は指定工事店が「水道法施工令」に基づき行う。** • **水電柱にはアース工事（D種接地工事：接地抵抗　100Ω以下）を行う。** • **建柱時は、水電柱下面の水はけを良くする。** • **EV・PHEV充電用として用いる場合は、必ず専用回路とし、漏電ブレーカー設置する。**

⚠ 警告

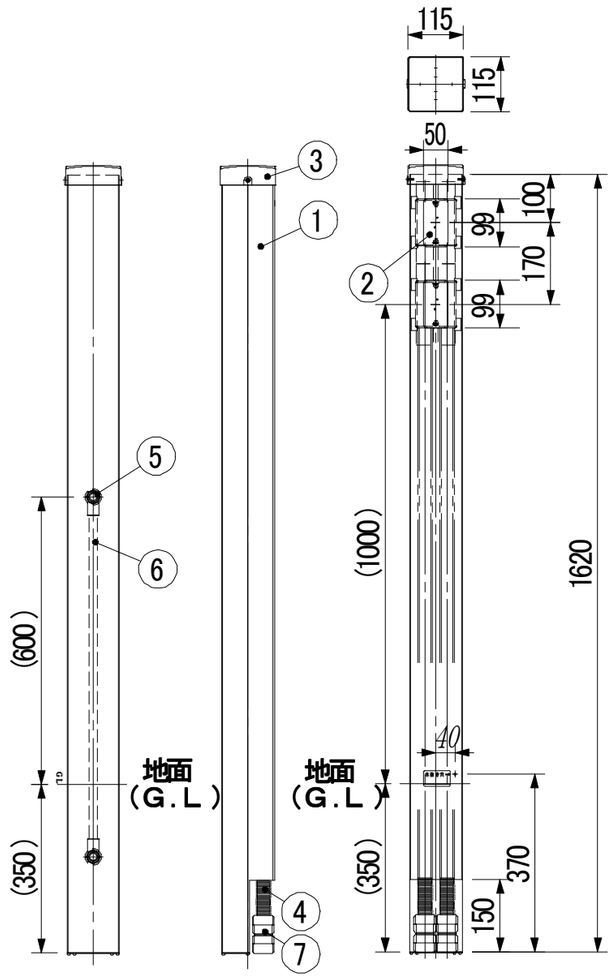
禁止	• **凍結の恐れがある地域には、設置しない。** 器具の凍結は、器具が破損し、漏水が発生する恐れがあります。 • **本品を給湯器や暖房機などの排気を妨げる場所や排気熱が直接当たる場所に設置しない。** 本品が換気の妨げとなり、通切な換気ができなくなる可能性があります。 • **本品を危険な場所や通行の妨げになる場所へ設置しない。** • **運搬中は振り回さない。** 人や物などに当たり、ケガの原因となります。 • **塩分を含む砂(海砂)を用いたコンクリート(またはモルタル)を使用しない。また大気中や地質に強い酸・アルカリ成分が含まれる場所には使用しない。** ポールが腐食し、破損・倒壊する恐れがあり危険です。
必ず守る	• **荷崩れしないように保管する。** ポールを立て掛けるなど不安定な保管は倒れて本品が破損するだけでなく、ケガの原因となります。 • **組立や運搬時に手を挟まないように注意する。** • **蛇口の取付け前に配管内の洗浄をする。(1 分程度の流水)** 配管内のゴミ、切り屑などが蛇口のパッキンを傷付ける恐れがあります。

お願い

※　EV普通充電で用いる場合は、日本配線システム工業会『EV普通充電用電気設備の施工ガイドライン』を参考とし、設計・施工を行って下さい。

- **外観商品ですので、輸送や保管など取扱いにご注意下さい。**
- **製品を破損したまま使用すると事故原因となりますので、破損した際はすぐに施工店にご連絡ください。**
- **破損や劣化、作動不良の原因となるので、本品の近くで火気を使用しないでください。**
- **本品の汚れを拭き取る場合は、研磨剤入りのクレンザー、シンナー、ベンジン、ワックス、石油、塩素系溶剤等を使用せず、水で薄めた中性洗剤を使用し、最後に水で濡らした布で拭き取って下さい。**
- **施工の際、ポール（外筒）に無理な荷重を掛けないで下さい。**
- **水電柱に充電コンセントを付けて車が通るところに設置する場合、必ず防護柵や車止めなどを設置し、水電柱への衝突対策をして下さい。**
- **排水管を設けない場合は、水はけのいい場所や水が流れても支障がない場所を選び、設置して下さい。**
- **凍結の恐れのある地域（寒冷地）では、最寄りの水道工事店にご相談の上、適切な凍結防止策を施して設置して下さい。**
- **ご不要の折には地域の条例に従って正しく廃棄して下さい。**
- **改良のため予告なしに製品の一部を変更することがありますので、ご了承ください。**

仕様図



No.	部品名称	数量
①	柱	1
②	ジョイントボックス(PS)E	2
②	トップ（添付）	1
④	合成樹脂製可とう電線管　22	2
⑤	水道用合成樹脂製塩化ビニル管用給水栓エルボ HI-VP13×Rp1/2（JIS）	2
⑥	水道用合成樹脂製塩化ビニル管　HI-VP13（JIS）	1
⑦	合成樹脂製可とう電線管用カップリング　22（添付）	2
	トラスタッピンネジ　4×12　（添付）	3
	皿小ネジ　M4×20　（添付）	4
	合成樹脂製可とう電線管 22 用キャップ（添付）	2
	合成樹脂製可とう電線管　22（添付）	2

施工手順

工事の取り合いにより施工手順が異なります。次の手順に従って施工して下さい。

■水道工事が先の場合の据付工事

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ ①水道工事 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

1.埋設穴を確保

設置場所にモルタルと割栗石寸法（500㎜×500㎜×450㎜）と水道配管とPF管配管工事を考慮したスペースを確保し、穴を掘る。

2.割栗石の敷設

水電柱の設置位置に合わせ、水はけ用の深さ 100㎜程度（500㎜×500㎜）の割栗石を敷く。（図１参照）

3.水電柱の据付け

水電柱を埋設穴の割栗石の上に立て、添え木等により仮固定し、垂直・水平の寸法を調整する。

4.水道管の配管

水道管を適切な深さで地中配管し、水電柱下部の水道管接続部にバルブソケットを用いてに接続する。

5.水道配管側のモルタルの打設

水電柱の下端のPF管を同梱のPF管で延長し、水道管・バルブソケットと水抜き穴を埋めないように注意し、モルタルを打設します。PF管の管端は同梱のキャップを嵌め、埋まらないように地面（G.L）から出しておきます。（図１参照）

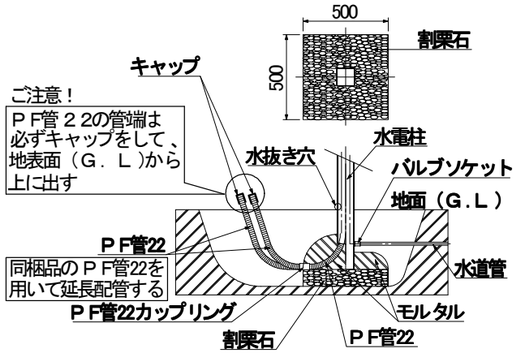


図１ 水道管とPF管の配管状況

6.埋設穴の処理

埋設穴に誤って人が落ちないように適切な処理を施す。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ ②電気工事 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

7.PF管の配管

PF管を適切な深さで地中配管し、水電柱のPF管の管端のキャップ外してPF管カップリングを用いて接続する。（図２参照）

注意 PF管の配管は、電線の通線に配慮して曲げ半径は管の直径の 6 倍（R200mm 以上推奨）以上として下さい。

8.アースをとる

アース棒を打ち込み、アース線を水電柱の最上部まで通線し、アース線接続部に付属のアース線ネジを用いて接続する。（図２、３参照）

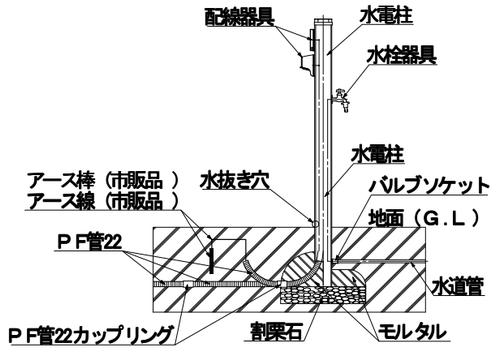


図２ 水道管とPF管の配管、アース線の配線状況

9.トップの取付け

トップを添付のネジを用いてネジ締め固定します。（図３参照）

注意 ネジが効かなくなったり、トップの割れ・欠けの原因となりますの で、締め過ぎにご注意下さい。

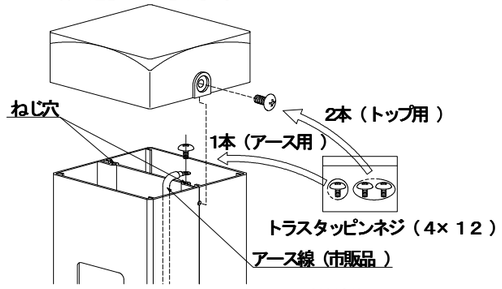


図３ 水電柱最下部アース線接続状況

10. 埋戻し

水抜き穴を塞がないようにPF管及び水道管を埋込みライン（水電柱最下部より350㎜）まで水電柱を埋め戻す。（図２参照）

注意 コンクリート埋設の場合、コンクリートが乾くまで充分養生して下さい。

■電気工事が先の場合の据付工事

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ ①電気工事 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

1.埋設穴を確保

設置場所にモルタルと割栗石寸法（500㎜×500㎜×450㎜）と水道配管とPF管配管工事を考慮したスペースを確保し、穴を掘る。

2.割栗石の敷設

水電柱の設置位置に合わせ、水はけ用の深さ 100㎜程度（500㎜×500㎜）の割栗石を敷く。（図５参照）

3.水電柱の据付け

水電柱を埋設穴の割栗石の上に立て、添え木等により仮固定しながら垂直、水平の寸法を調整する。

4.PF管の配管

PF管を適切な深さで地中配管し、水電柱のPF管の管端のキャップ外してPF管カップリングを用いてに接続する。（図５参照）

5.アースをとる

アース棒を打ち込み、アース線を水電柱の最上部まで通線し、アース線接続部に付属のアース線ネジを用いて接続する。（図４、５参照）

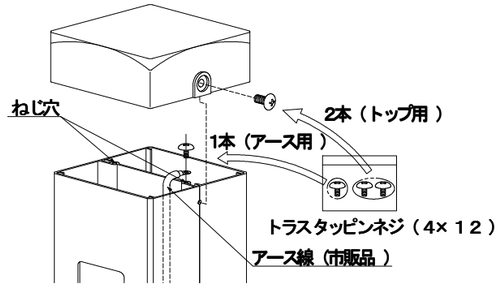


図４ 水電柱最下部アース線接続状況

6. トップの取付け

トップを添付のネジを用いてネジ締め固定します。（図４参照）

注意 ネジが効かなくなったり、トップの割れ・欠けの原因となりますので、締め過ぎにご注意下さい。

7.PF管配管側のモルタルの打設

水電柱の水道管接続部と水抜き穴を塞がないように注意しながらモルタルを打設する。（図５参照）

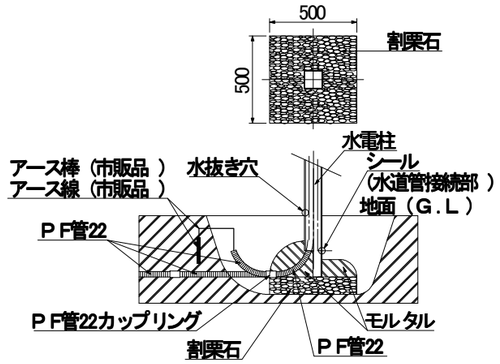


図５ 水道管とPF管の配管、アース線の配線状況

8.埋設穴の処理

埋設穴に誤って人が落ちないように適切な処理を施す。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ ②水道工事 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

9.水道管の配管

水道管を適切な深さで地中配管し、水電柱下部の水道管接続部にバルブソケットを用いてに接続する。（図６参照）

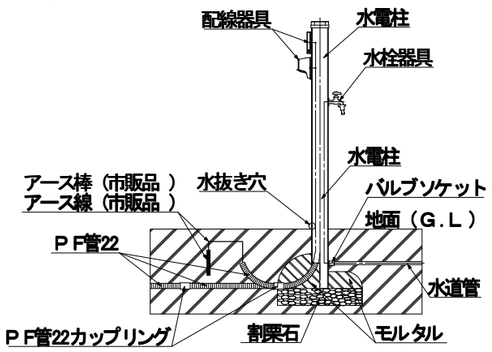


図６ 水道管とPF管の配管、アース線の配線状況

9. 埋戻し

水抜き穴を塞がないようにPF管及び水道管を埋込みライン（水電柱最下部より350㎜）まで水電柱を埋め戻す。（図６参照）

注意 コンクリート埋設の場合、コンクリートが乾くまで充分養生して下さい。

■水栓器具及び配線器具の設置

水栓器具の取付けは水栓器具、配線器具の取付けは通線後、配線器具の注意事項に従って取り付ける。

■照明器具の取付け

1. ケーブルを水電柱最上部まで通線し、引き出しておく。
2. トップ（添付）の中央に照明器具用のケーブルを通線のための孔を開ける。
   注意 ケーブルを傷付けないよう孔には面取りを施して下さい。
3. トップの孔にケーブルを通しながらポールに取付け、開口（ケーブル通線部）の隙間を防水処理（シーリング処理）を施す。（図７参照）

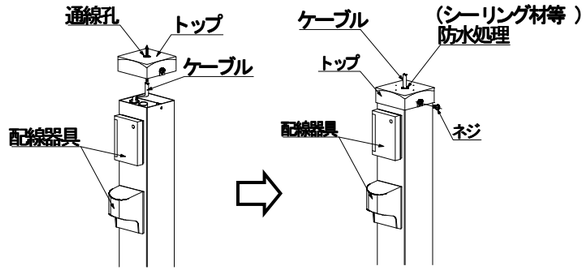


図７ 通線及び防水処理

4. 照明器具の基台を、タッピンネジ（4×20）を用いてトップにネジ締め固定する。（図８参照）
   注意 取付けピッチが66.7㎜、基台の大きさが最大110×110㎜以下の照明器具を選択し、タッピンネジ（4×20）を用いてネジ締め固定して下さい。

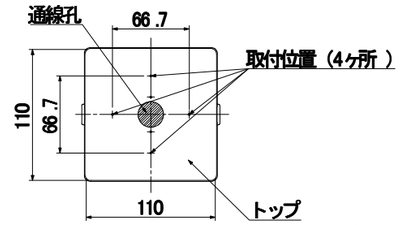


図８ 通線孔及び照明器具の取付け位置（トップ）

5. 照明器具の取付け及び電気工事は照明器具の注意事項に従い、資格を有する方が行って下さい。

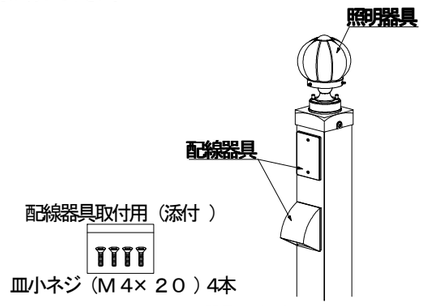


図９ 照明器具取付け例